

# 白藍塾オリジナル

## 2015入試小論文分析&解答のヒント

2015年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ●慶応・環境情報学部

8つもの資料があり、それぞれ何らかの発明や創造と、その社会への影響について説明されている（Aは自転車、Bはインターネット、Cは半導体ヘテロ構造、Dは3Dプリンティング、Eはクリエイティブリユース、Fは冷蔵庫、Gは公開鍵暗号、Hは流通網の構築）。

設問1では、それぞれの資料にタイトルとサブタイトルをつけることが求められている。昨年度の問題1と似た問題だ。ここで時間を使っても仕方がないので、ざっと資料を眺め、「何についての発明・創造か」「社会にどんな影響を与えたのか」の2点を大まかに読み取ってタイトルらしくまとめればそれでよい。表現などを考えすぎる必要はない。

ただし、昨年度と違って、資料の読解が必要なのはこの設問のみ。設問2と設問3は関連しているので、いっしょに考えること。設問3-2では、1000字もの文章を書くことが求められているわけだから、自分の手に負える範囲で考える必要がある。

受験生にそれほど高度なアイデアは求められていない。重要なのは、「現代社会の状況や問題点を踏まえて考えているか」「ストーリーとして一貫しているか」といった点だろう。たとえば、環境問題を解決するアイデアであれば、資料も参考にしやすいし、内容的にも書きやすいはずだ。オーソドックスに、情報技術の改善・進化を提案するアイデアでもかまわない。大風呂敷を広げる必要はないが、環境情報学部の研究領域を思い出して、それにふさわしい内容を考える必要がある。

設問3-1と3-2は、要約文と本文の関係と考えるとよい。「告知文」という形式に囚われて考えすぎても、時間内にうまい文章を思いつくのは困難なので、ふつうの要約文のように書くほうが無難だろう。

設問3-2では、講演資料という形をとって書くことが求められているが、これもあまり気にする必要はない。対策を書く場合の四部構成を応用すれば、うまくまとまるはずだ。第1部で自分の生み出した発明・創造を簡単に説明し、第2部でどのような問題を解決するためのアイデアかを説明する。そして、第3部で、30年間の社会展開、どんな壁にぶつかってそれをどう克服したか等を、2つか3つの段落に分けて説明するとよいだろう。

環境情報では、毎年出題形式に工夫を凝らしてくるので受験生はとまどうことが多いだろうが、そもそも120分のできることは限られている。なるべくシンプルに、小論文の基本に従ってまとめるほうが、結局は質の高い答案になるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>